

# D級消火ポンプについて

## 1 消火栓取扱い時

- (1) 消火栓は、四角と丸型があります。消火栓によっては、蓋が非常に重いものもあるので、怪我には十分に気をつけてください。(蓋が開かない場合は、消火栓蓋周りを叩いて下さい。)



消火栓蓋 四角型



消火栓蓋 丸型

- (2) 吸管取り付け時は、吸管に消火栓用媒介を取り付けて消火栓に「カチッ」と音がするまで挿入して下さい。その時、必ず上に持ちあげ吸管が抜けないことを確認して下さい。(外れていると、噴水状態になり危険です。)



- (4) 吸水後は、消火栓内への転落防止措置を図り事故防止に努めて下さい。  
(安全員を配置するか、ロードコーン等を置いて下さい。)

- (5) 断水時は使用できません。

## 2 防火水槽取扱い時

- (1) 防火水槽等から水を出す場合は、吸管を全部真っ直ぐに延長し投入してください。使用中に減水してストレーナー（網目模様のごみ除け）が浮き、水が出ない原因となります。
- (2) ストレーナーは、空気や異物の混入を防ぐために、水面から 30 cm以上沈め、底から 15 cm以上浮かせてください。（調整は控え綱で行います、控え綱がない場合もあります。）
- (3) ポンプの吸水高は、落差4m以内を目安にしてください。（吸管の長さが 4.5m のため）
- (4) 吸管投入時及び投入後は、防火水槽への転落に注意して下さい。（吸管投入後は、防火水槽の蓋を2／3締めて転落防止を図ってください。）



防火水槽蓋



2/3 開放・閉鎖時

## 3 エンジン始動及びホース延長時

- (1) エンジン始動時は、ポンプ直近に人がいないのを確認して作動させてください。
- (2) 延長したホースの結合が正しくできたか、ホースがねじれていないかなどを確認して下さい。（結合は、「カチッ」と音がするまで行い、ホースが抜けないことを確認して下さい。）
- (3) 放水担当者が筒先を持ち、ホースを延長する時は、延長方向に人がいないのを確認し延長してください。また、延長後は、ホースによるつまずきや転倒防止に留意して下さい。

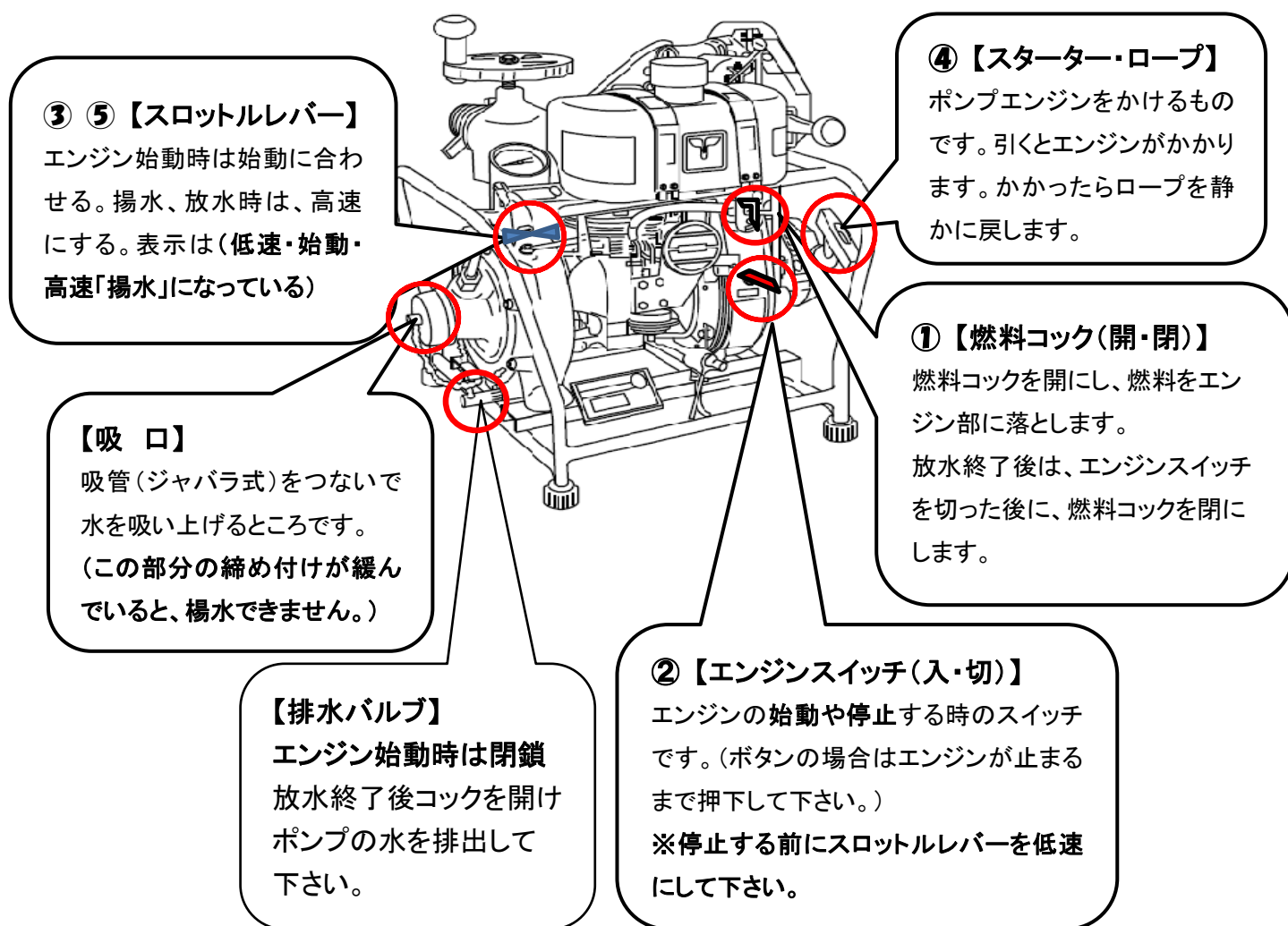
## 4 放水時

- (1) ポンプ操作員は、放水時急激にポンプ圧力を上げないでください。（反動力により、放水担当者が転倒するなどし、怪我をするおそれがあります。）
- (2) 放水コックは急激に開放しないでください。急激に開放すると、放水担当者への反動力及び防火水槽からの揚水時ポンプからの落水（ポンプから水が抜ける）のおそれがあるため注意して下さい。
- (3) 放水担当者は、火災現場に近づきすぎないで放水してください。（近づきすぎると、輻射熱等により火傷や怪我をする危険があります。放水長は、約 10m～15mです）

## 5 注意事項

- (1) 放水は、2階建て以下の建物で行ってください。
- (2) 延焼している建物内には、絶対に入らないでください。
- (3) 建物屋根から瓦等の落下物があるため、むやみに建物に近づかないでください。
- (4) 2棟以上燃えている火災では、危険が伴うので消火活動を休止し、退避して下さい。
- (5) 消防隊又は消防団員が現場に来た場合は、消防隊に任せ活動を休止し退避してください。
- (6) 常に周囲を確認し、可能な限り火災の状況や情報を集め、危険であると判断したら放水を中止し安全な場所へ退避して下さい。

## 6 エンジン各部説明



※①～⑦の数字は、エンジン始動順です。

使用方法は別紙「D 級ポンプの始動方法」を参照ください。